

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年10月24日（木）

2 確認箇所

- ・増設多核種除去設備
- ・J2、J3及びJ4タンクエリア

3 確認項目

- (1) 増設多核種除去設備薬液注入口における塩酸漏えいの対応
- (2) J4タンクエリアの多核種除去設備処理水移送配管脱落の対策状況

4 確認結果の概要

- (1) 増設多核種除去設備薬液注入口における塩酸漏えいの対応について
10月24日午前8時45分頃、増設多核種除去設備の薬液注入口で塩酸をタンクローリーから受け入れる作業をしていた際に、10%塩酸約100Lが流出したとのことであったため、現場の状況を確認した。
 - ・流出原因は注入口に接続したタンクローリーのホースが外れたことであった。
 - ・現場確認時は塩酸が流出した箇所の拭き取り作業が行われており、バケツ1杯程度は塩酸を回収していたが、塩酸の一部は付近の排水溝に流出していた。（写真1）
 - ・拭き取り後は、流出箇所にソーダ灰（炭酸ナトリウム、水に溶けて塩基性を示す）による中和作業が行われていた。（写真2）
 - ・東京電力によると、排水溝に流出した塩酸はA排水路を通じて港湾内に排水されるとのことであった。東京電力が港湾内の排水口付近のpH測定を実施したところ中性であったとのことであった。



(写真1-1)

塩酸の拭き取り作業の状況（アスファルト）

写真の排水溝に塩酸が流出（矢印は排水の流れ）



(写真1-2)
漏えいした塩酸の拭き取り作業の状況（注入口付近）
赤丸内の一番右のノズルが塩酸注入口



(写真1-3)
回収の状況



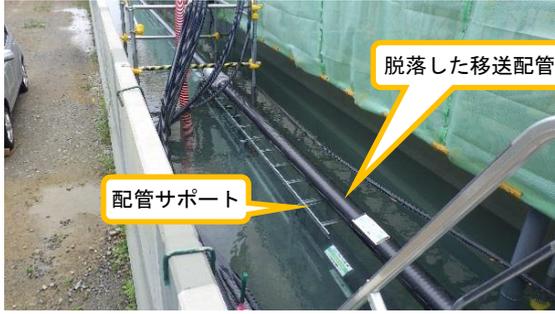
(写真2)
中和作業の状況

(2) J4タンクエリアの多核種除去設備処理水移送配管脱落の対策状況について

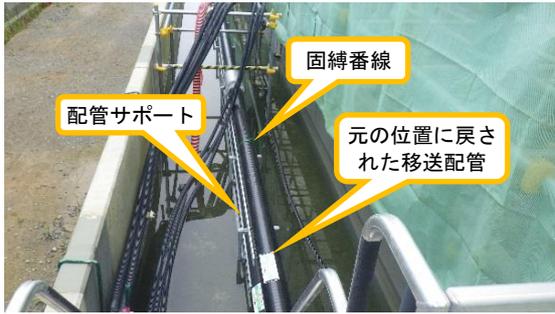
本年7月5日に東京電力により確認されたJ4タンクエリアの多核種除去設備処理水移送配管が配管サポートから脱落していた事象については、同月24日に脱落した配管が配管サポートに番線で固縛されていることを確認した。東京電力によると、当該事象の再発防止策として留め金具により配管を固定するとのことであったため、対応状況を確認した。

さらに、J4タンクエリアの他、J2、J3、G1南タンクエリアの配管についても水平展開として留め金具を設置する予定であったため、併せてJ3、J2タンクエリアの留め金具の設置状況を確認した。

- ・確認した範囲では、J4、J3及びJ2タンクエリアの配管に留め金具が設置されていた。（写真3）
- ・確認した留め金具は全て約2m間隔で配管に取り付けられていた。



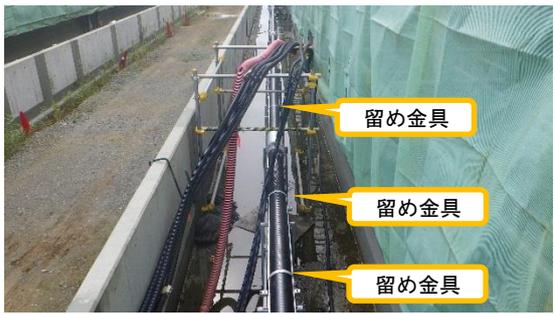
(写真3-1)
 J4タンクエリア東側の配管脱落の
 状況
 (7月8日撮影)



(写真3-2)
 J4タンクエリア東側の配管の固縛
 の状況
 (7月24日撮影)



(写真3-3)
 固縛部分拡大
 (7月24日撮影)



(写真3-4)
 J4タンクエリア東側の配管の留め
 金具設置状況
 (10月24日撮影 以下同じ)



(写真3-5)
上記留め金具拡大



(写真3-6)
J3タンクエリア南側の配管の留め
金具設置状況



(写真3-7)
J2タンクエリア北東側の配管の留
め金具設置状況

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。